

島根同窓会設立記念講演会

放送大学の未来を見る－東アジアの視点から－

2013年5月19日（日）

会場 松江市・スティックビル 5階 交流ホール

講師 放送大学副学長 吉田光男



ご紹介を頂きました吉田です。本日は主に放送大学のお話をしますが、日本の教育行政の総本山である文部科学省が、省庁舎に「放送大学学生募集」の垂れ幕を掲げているように、放送大学の学生数は約9万人と巨大な大学で、国内に57カ所にキャンパスを設置し、文科省が他大学と違う特別な国家的ミッションを実現するための大学であるとしています。

大学は今年で創立30周年を迎えますが、当初は関東広域圏のみの大学でしたが、13年後の1998年にCS放送スカイパーフェクトTVで授業が開始され、全国化が実現して全国に学習センターが開設となり、島根学習センターも同時に開設しました。

開校30年、これから1年間は「学ぶ。世界が変わる」、この言葉をスローガンにして放送大学の現在・未来を考えて行きます。「学ぶことによって世界が変わる」とは、学ぶことによって自分の持っている世界が変わる。奥が深くなる、幅が広くなると同時に、見る目が変わることによって、今まで見えた世界と違った世界が見えてくるし、そういう人が動き出すと世界そのものが変わってくるということです。

放送大学のコンセプトとは

現在、放送大学は「生涯学習」「教養教育」「地域貢献」の三つのコンセプトを表に出しています。東アジアの他の同じような大学と比較すると、わが放送大学は大きな特徴を持っている。韓国の放送通信大学(30万人)や中国の広播電視大学(数百万人)は大変な学生数ですが、大きな違いは日本が幅広い年齢層での生涯学習の大学であることが、韓国や中国の放送大学と違う。更に全国区(千葉幕張の本部)と地方区(全国の学習センター)を持っている大学であることです。

21世紀の日本にとって大事なことは、地域貢献であり、生涯学習を提供することです。それには教養が大事です。資源も無い、土地も無い。では何で支えるのか。知的な好奇心をもつことと、新しいことに取り組むことが日本のこれからの課題です。

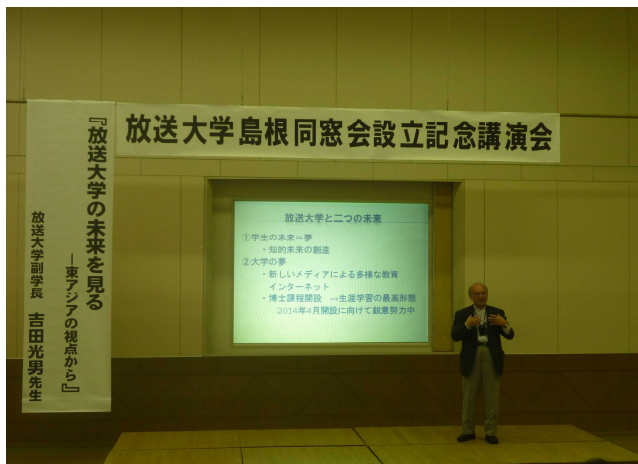
従って、放送大学がもっともっと頑張って教養教育をしっかり行うことです。また、東日本大震災の時に、地域がいかに大事であるかを思い知らされました。

放送大学は、みなさんが「夢」という知的な未来の創造を得るために、これを提供して行く。現在開設している大学院では対話型メディアの活用、さらに博士課程を開設するための準備をしており、生涯学習の最高の形態を作る準備中です。

韓国とは江戸時代から正式外交

私の専門は韓国ですが、2002年は大変な年となりました。それは「冬のソナタ」の崔志宇（チェ・ジウ）です。この頃から韓国は面白い、素敵だという人たちが出てきました。いま、なぜこのようなものが出てくるかという、韓国はかつてこの近世という時代を暗い時代、駄目な時代、そのように考えていました。

ドラマで取り上げる時は否定的に取り上げて、日本と韓国の両方からこの時代が否定されたのです。しかし、今肯定的に取り扱われ、韓国が経済的に成長し、世界経済大国になるにあたって、例えばその自信の中から自分たちの文化を肯定的に表して行こうとしている。それは、日韓の交流数です。



設立記念講演に大学の未来を語る吉田講師

日韓の国交回復時には、年間に往復する人は1万人であったのが、いまや1日で1万人です。それだけの違いがあります。では、いつごろからそのように変わってきたのか。それは2002年のチェ・ジウやヨン様から変わったといわれていますが、私は間違いだと思います。1990年くらいで、すでに200万人の日本の旅行客が行っています。

日本とは関係が良くなっており、韓国も自信を持っているわけですが、問題は今でも出てくる歴史認識、領土問題です。私は2005年に日韓歴史認識共同研究委員会に駆り出されて議論をしたわけですが、結局最終的には良いところに落ち着きましたが、日本と韓国の歴史認識が違っているという認識を共通化できました。最初から同じでなければ駄目だとすることが間違いです。

例えば近代史で言えば、韓国で竹島、従軍慰安婦、植民地、この問題は日本との間で政治摩擦はありますが、実は一部の人だけが騒いでいるので、マスコミもデモ隊の一部を映像で流しているのです。

日本と韓国は、江戸時代以来、正式な外交を唯一開いていたが、その証として朝鮮政府から江戸幕府に対して、12回にわたり通信使節史という外交使節団が送られた。日本側では徳川の徳を慕って朝貢に来たといっていた。それに対して韓国側は、徳川から来てくれといったから行ってやった、と互いに面目が保てるのが外交であって、日本側にもその

ことの影響があった。

放送大学のコンセプトとは

ところで松江に関係のあるものが二つあります。それは、江戸時代に松江藩に朝鮮から入ってきた「薬用人参」と「雲集木綿(もくめん)」です。薬用人参は松江藩の財政に大いに貢献しました。また「もくめん」のほが「もめん」というのは、「も」は韓国語だからです。「むみょん」と言います。それが韓国から日本に来て「もめん」になったのです。

今韓国も大きく変わってきています。大学進学率で見ると日本が53.2%、韓国82.8%でもはや韓国は高学歴社会になっていて、かつてのような儒教だけでなく、学問一般に高い価値を置くようになってきた。結婚の制約となっていた一族のつながりも法律上も切れてきた。もう昔の常識は通用しなくなってきた。

その結果、韓国経済が1997年に金融危機、通貨危機を迎えた後、大きく変革をさせられた。とはいえ、韓国は組み立て産業のため国産化が低く、基礎的な部分を頑張らないといけない。なぜ日本はノーベル賞が沢山取れるのか、韓国が学んだことは、知的好奇心、生涯学習をすること。つまり狭い目的だけで学ぶのではなく、教養を身につけることが基盤であり、それが放送大学であって、しかも全国に開設していて、地域のリーダーを結集するために努力していることです。

ですから、放送大学は地域を中心にしてリーダーたちが集まり、地域を活性化して地域と地域をつなぐ、その基盤になるのが各学習センターということになります。

東アジアだけでなく、世界からも期待されている放送大学を、同窓会とともに在校生の皆さんも発展に力をお貸しいただきたい。(文責・石川直樹)

